



2017年11月21日

報道機関各位

**世界防災フォーラム特別パネル「原子力エネルギー政策の未来—福島原発事故からの教訓」(11月27日)の情報発信にご協力ください!**

報道関係者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より本学院の教育へご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

東日本大震災から6年、日本では「無言の空気」圧力によって、原子力エネルギー問題について公に議論することはだんだんと難しくなっています。尚絅学院大学森田明彦研究室は、次第にタブー化されつつある「原子力エネルギー」問題を普段のお茶の間の話題として取り戻すことを目指し、世界最新のオンライン会議システムをつかって、誰でもパソコンかスマホがあれば参加できるオープンな対話の場を、世界防災フォーラム/防災ダボス会議@仙台(11月25日~27日)において開設します。今回のパネルは、日本に住む多くの人びとが世界とつながり、心を開いて東日本大震災、とりわけ福島原発事故によって生じた原子力エネルギーの未来に関する大きな疑問・不安を共有し語り合う場として開催するものです。このパネルを契機に、未来のエネルギー政策について活発な議論が広く行なわれ、より良いエネルギー政策がつくられることを強く期待しています。

報道関係者の皆さまにぜひ、本パネルについて取材いただき、情報発信にお力添え頂きますようお願い申し上げます。

**【特別パネル開催概要】**

日時：2017年11月27日午前9時より10時半

会場：仙台国際会議場(パネルの様子はオンラインライブ配信します)

パネリスト：

謝牧謙教授(輔仁大学、台湾大学)工学博士(東北大学)

トルガ・ヤルマン教授(Prof. Tolga Yarman)(Okan University, トルコ)

森田明彦(尚絅学院大学)

内容：別紙の参考資料をご参照下さい。

本件についての問い合わせは森田明彦研究室までお願いいたします。

電子メール：[a\\_morita@shoke.ac.jp](mailto:a_morita@shoke.ac.jp) 携帯：090-9856-5782

**<プレスリリース参考資料>**  
**世界防災フォーラム特別パネル**  
**「原子力エネルギー政策の未来－福島原発事故からの教訓」**  
**11月27日午前9時より10時半**

**特別パネル開催の経緯**

今回の特別パネルは、台湾国立大学日本研究センターを協力団体として、尚綱学院大学森田明彦研究室が主催するものです。

この特別パネルは、2015年12月2日に台湾国立大学日本研究センターが主催した第31回中日工程技術研究会（シンポジウム）エネルギー産業人文組（エネルギー産業政策人文分科会）（2015年12月2日、台湾）および同分科会の成果物である日本学研究叢書第23号『福島事故後台日エネルギー政策の変換と原子力協力』（国立台湾大学出版センター、2017年5月）<<http://www.bunsei.co.jp/ja/hanbaidairi/books/1515-nihongaku23.html>>のフォローアップの一環として開催するものです。

**特別パネルの内容**

近年の技術革新によって、今日では安定的に多数の人びとがオンラインまたはハイブリッド（オンライン+オフライン）で話し合うことができるオンライン会議システムが安価に利用できるようになりました。また、デジタル技術を活用した、「知識の習得は個人で行い、教室では創発的な対話中心の授業」が広く普及しています。

今回のパネルは、これらの世界最新のハードとソフトを活用して、PCまたはスマホさえあれば、世界中どこからでも参加できるオープンな「対話空間」となる予定です。報告者の報告原稿と解説動画は事前にオンライン上に公開されます。

視聴される皆さんは、それぞれの報告者の報告内容を事前に学び、質問やコメントを送ることができます。当日のパネルでは、皆さんからの質問に対する応答を中心に話し合いを行います。もちろん、その間にもオンライン（チャットへの書き込み形式）質問を受け付けます。時間の制約上、すべての質問にお答えすることは難しいかも知れませんが、可能な限り回答して行きたいと考えております。

**特別パネル開催の動機**

日本では「無言の空気」圧力によって、原子力エネルギー問題について公に議論することはだんだんと難しくなっています。しかし、すべての国が同じ状況にあるわけではありません。

2015年12月に私も報告者として参加した台湾の会議では、台湾電力会社の社員さんが公

開の場で実名と所属を名乗ったうえで、自分は3年以内に原発は廃止されるべきと思うと話していました。他の参加者も自然体でこの発言を受け止めていて、日本の参加者だけがびっくりしたという次第です。

台湾のほうが日本よりずっと民主主義文化が成熟しているということで、これはほんとうに素晴らしいことだと思います。今は明治時代と違って無理して「脱亜入欧」しなくても、立派な隣人が周りにたくさんいます。日本人だけではなかなか冷静に話せない問題でも、良き隣人が一緒にいてくれれば、安心して心をひらくことができると思います。

今回のパネルは、そんな思いで、昔から日本の善き友人であった台湾とトルコの専門家の力を借りて、タブー化されつつある「原子力エネルギー」問題を普段のお茶の間の話題として取り戻そうという試みです。当日は世界最新のオンライン会議システムをつかって、誰でもパソコンかスマホがあれば参加できる、オープンな話し場をもうける予定です。

また、WORLD BOSAI Forum は、2015年3月に仙台で開催された第3回国連防災世界会議のフォローアップ事業として東北大学が中心となって実施されるものです。学問の自由を保障されている高等教育機関が主催する国際会議であれば、政治的思惑に左右されない、科学的・合理的な理性的対話が可能であるはずで、また東日本大震災の被災地にある大学には、原子力エネルギー政策を巡るタブーなき、ひらかれた対話の空間を創り出す責任があると思います。